

下関出身、または下関を活動拠点として制作してきた作家をピックアップする「潮流・下関」。今回は石山義秀、伊東丈年、中原麻貴の3人の作家に注目します。日本画や洋画、彫刻という分野の異なる、また世代の違う作家たちのこれまでの歩みをたどり、下関という場所が、制作にどのような影響を与えてきたかを問いかけます。各作家の代表作のほか、ターニングポイントになった作品、試行錯誤や制作の過程がわかるスケッチなどを展示し、各人の制作活動の歩みをご覧いただけます。

表現者と美術館が共同で作り上げる本企画によって、歴史ある町下関から新たな芸術を発信し、将来の文化の発展を目指します。各作家の競演によって、みなさまに今の下関の美術の〈潮流〉を体感していただけます。

## ● 作家紹介

いしやまよしひで  
石山義秀 (洋画家)

1953年熊本県天草市生まれ、下関市在住。下関の高校を卒業後、1976年阿佐ヶ谷美術専門学校卒業。1977年に渡仏。南仏のエクサン・プロヴァンスの美術学校基礎課程修了、フランス造形表現国家上級試験に合格後、研究生としてアトリエで制作。1985年に帰国後は、故郷熊本や長崎、下関の公共建築の壁画を手がける。今回出品するのはフランス留学時代の作品。石山氏の原点となる、西洋の古典的な群像表現を中心に紹介。

いとうたけとし  
伊東丈年 (彫刻家)

1964年大分県佐伯市生まれ、下関市在住。実家が石材業を営み、地元出身の彫刻家である朝倉文夫の作品を目にした経験から、彫刻家を志す。佐藤忠良に師事するため、東京造形大学彫刻科へ進学。大学卒業後は下関を制作拠点とし、地元大分や下関の公共彫刻を手がける。内省的で現代的な彫刻表現を追求してきた。本展では、学生時代を含め20代から現在にわたる作品を展示。

なかほら まき  
中原麻貴 (日本画家)

1979年下関市生まれ、下関市在住。高校時代から美術の制作を学び、その後京都造形芸術大学日本画コースに進学。大学の授業では写生が重視され、描く対象を思案していたところ惹かれたのが、樹木などの自然風景や、住居の立ち並ぶ光景だった。今は忘れられた記憶、大切にされてきた思いを描く。今回出品する作品の多くは、学生時代から制作してきたスケッチ作品。

## ● 講演会

### 「美と公共性—公立美術館を考える—」

ようやく、コロナ禍でひととき遠ざけられた〈近さ〉が帰ってくる。国や県の境を越えて、人びとが帰ってくる。その喜びの中で、異文化と出会い、過去と出会う場としての公立美術館の役割を考えたい。そこでは、美術作家と来館者の、同じ匂いの息遣いが聞こえてくるはずだ。

講師: 金田 晋 (東亜大学特任教授・広島大学名誉教授)

日時: 12月19日(土) 午後2時~午後3時30分

場所: 下関市立美術館 講堂

※先着順。電話で受付し、定員(30名)になり次第締め切ります。

### ご来館の皆様へ

当館では、新型コロナウイルス感染拡大防止のための対策を実施しております。入館時にはお名前とご連絡先の記入をお願いしております。ご来館にあたり、現時点では予約の必要はございませんが、最新の情報は、当館公式ホームページでご確認ください。

## 下関市立美術館 Shimonoseki City Art Museum

〒752-0986 山口県下関市長府黒門東町1-1  
Tel.083-245-4131  
<http://www.city.shimonoseki.yamaguchi.jp/bijutsu/>

### 交通案内

#### バス〔サンデン交通〕

- JR下関駅 から(約20分)長府・小月・宇部方面行き「市立美術館前」下車すぐ
- JR新下関駅 から(約25分)「関門医療センター」経由「マリナランド」または「下関駅」行き「松原」下車、徒歩3分
- JR長府駅 から(約15分)「長府駅」または「長府駅前」バス停から「下関駅」または「市民病院」行き「市立美術館前」下車すぐ

自動車 中国自動車道・下関ICから「壇ノ浦」方面に進み、国道9号線合流点を左折して約5キロ



石山義秀《ブルゴン通りのショーウィンドー》1984年



石山義秀《春先の階段(裁判所前)》(部分) 1981年



伊東丈年《時のマスクI》2020年



伊東丈年《夢の糸》2010年



伊東丈年《自画像デッサン》 1992年



中原麻貴《住居・風景スケッチ》2014年



中原麻貴《樹の詩》2009年



中原麻貴《住居・風景スケッチ》(部分)2015年頃

